

米・中国国交断絶もありうる

東京外語大・中嶋嶺雄教授

揺れる中国情勢で講演

中日サロン



中嶋嶺雄教授が中日サロンの講演者として登壇する様子。東京外語大教授の中嶋嶺雄氏が、中日サロンの中心部で講演している。

で中国を制圧したことに大きな問題が残るだろう。

恐怖政治は長続きはしないだろう。民主化を求める人々には「一人治」ではなく、憲法に基づいた近代的な政治意識が芽生えている。今回の民主化要求の動きは香港、台湾にも広がり、民衆レベルの大きな潮流となった。

日本政府も真の日中友好を目指すなら、事態の打開策を強力に働き掛けるべきだ。

長期的にみると、この潮流は花開くだろう。アジアでは台湾、大韓民国といった周辺諸国が、中国とは比較にならない経済発展を遂げ、中間階層が大きく膨らんだひし形構造の社会に移行している。

革命国家はいかにコストの高いものであり、犠牲の大きな社会であるか、今回、実証されたといえる。

中国をはじめ、ソ連、東欧諸国で起きている今日の動きは、マルクス主義の終えんを意味しており、今回の中国の事態は長期的に「中華人民共和国解体の第一歩」といえる。

日、富山新校町の富山県職員会館で開く。講師は飯野峻尾日本生産性本部主任経営コンサルタントで「新人事・賃金制度導入について」と題して講演する。定員三十人。会費三万五千円。問い合わせは同本部へ。電話0764(31)28200。

【福井】
◇売り上げ倍増スクール
福井商工会議所が7月19日午前10時から福井市の福井商工会館で開く。営業効率研究所の山口博康社長を講師に営業日報、行動予定表を活用した売り上げの伸ばし方を学ぶ。受講料は一万二千円(商議所会員以外は二万三千円)

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

特に改革派として学生にも同情的だった趙紫陽党総書記が、ゴルバチョフ書記長との会談で、「鄧小平が全権を掌握している」という、党の重大機密事項を暴露するといったところまで、指導部内の亀裂が深刻化していた。

戒厳令は学生を排除する目的ではなく、鄧小平自らの危機感、恐怖感の表れであったといえる。

鄧小平は楊尚昆国家主席の私兵「二七軍」に救われ、流血惨事のような徹底した弾圧を強行した。裏を返せば、そこまで指導部は追い込まれていったといえる。

今回の事態の結果では、鄧小平、李鵬首相、楊尚昆国家主席の三人がいずれも四川省出身であることにみられるように、地縁、血縁に結ばれた封建的で古い支配体質が、武力

【石川】
◇法律相談コーナー 7月5、19日の両日午後2時から同4時まで金沢市尾山町の金沢商工会議所中小企業相談所に設置する。債権回収の方法、不動産の賃借・売買、契約締結時の注意点など経営に関する法律相談を弁護士が受け付ける。無料。相談希望者は同相談所へ電話0762(63)11511まで申し込めばよい。

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

「四月・五月革命」の背景には、中国の改革・開放路線が、中国社会に大きな混乱やひずみを生み出していることが挙げられる。通貨膨張によるスーパーインフレ、党幹部の利権拡大、企業家と官僚が癒着した「官倒」の横行など、社会的格差の増大に庶民の欲求不満がこぼれていた。

これに五・四運動の七周年記念、胡耀邦前党総書記の死去が重なり、デモが拡大した。学生のデモを指導部は「動乱」と規定。五月十五日からのゴルバチョフ・ソ連共産党書記長の訪中で、デモは百万人にも膨れ上がった。

五月二十日の戒厳令発令にいたった最大の要因は、超法規的存在である鄧小平の正統性の根拠を問う学生に呼応する動きが、指導部内部や軍内部まで広がったことだ。

鄧小平は「共産主義への反乱」を見抜いていただけに、危機感を抱いたのではないかと。

ウインター・レボリューション(反・革命)で、社会主義国内部ではかつてなかったことだ。

京外国語大学の中嶋嶺雄教授が、「揺れ動く中国」と題して約一時間半にわたり講演した。

中嶋氏は中国研究家の第一人者で、中国指導部が戒厳令を布告し、民主化を求める学生・市民によるデモ行動を武力鎮圧した背景や、今後の中国の行方について講演した。

講演内容は次の通り。
民主化を求める学生・市民デモを武力鎮圧した中国共産党指導部は現在、恐怖政治を断行しているが、逮捕者の即時処刑などに対して、米國をはじめとした西側諸国から強い非難がでており、米・中国国交断絶まで行きかねない情勢だ。実力者・鄧小平は中国をどこに導くのか、海図を描ききれていない。

戒厳令発令の事態に至ったポイント、学生たちの民主化要求が言葉だけの民主化だけでなく、共産党一党独裁体制に対する真つ向からの挑戦だったことにある。まさに力

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両

【富山】
◇企業セミナー 富山県生産性本部は、7月18、19の両